

晩秋より厳冬・早春と、幾度か北会津村の調査にでかけて、東に秀麗な磐梯山をまともに仰ぎ、はじめて解いてもらったことを、ほほえんでいるかのような、西の博士山や明神岳の残雪をながめ、さらに北の下荒井の蓮華寺とも密接な関係のある、私も十三でお山をかけたことのある、まだ部厚い雪に蔽われた飯豊の霊峰を拝して、実に北会津村は、盆地の四周の山々を仰ぐ、稀な形勝の地であるのを思ってみた。恐らく数千年も前からの、この村の開拓者、耕作者たちも、疲れて腰をのばしては、これらの山々を仰ぎ、朝な夕な、手をあわせん思いであつたろうと思う。盆地の底にも、やはり仰ぐ観光資源がめぐまれている郷土は大切なもの、よいものであると思う。

必ずしも万能の学者でないから、この村誌も、村長や村人の意にそわない点も多かろうと思うが、今の私としては、時間と、身体にあき具合から、せいっぱいの仕事であつたことを諒せられたい。

終りに、いろいろと御世話になった編さん委員、区長、その他の皆々様に、心から、厚く御礼申上げる。このような、ささやかな郷土誌でも、そこに生活する人々にとっては、過去もあり、将来にもつながるものなので、何かの御役に立てていただければ幸いである。

昭和四十二年五月

武蔵野の亜細亜大学研究室にて

山口 弥一郎